

内外混在空間

屋根の重なりによって生まれる場

指導教員 吉松秀樹教授 印

8AEB3139 川福 拓

1. 問題意識

斜面に広がる集落の屋根が幾重にも重なって見え、その風景に圧倒された(fig1)。屋根は私たちの生活の中で密接に関わっていながら、手の届かない場所にある特別な存在であると感じた(fig2)。



fig.1 屋根の重なり



fig.2 屋根との関わり

3-1. 分析__野屋根

屋根の重なりから日本建築に見られる野屋根に着目した(fig3)。空間に多様な変化を求めた野屋根は、その下に領域をつくるため空間の質に強く影響を与える(fig4)。

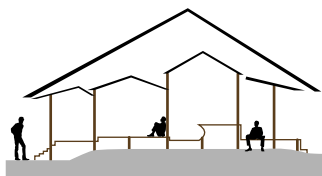


fig.3 野屋根



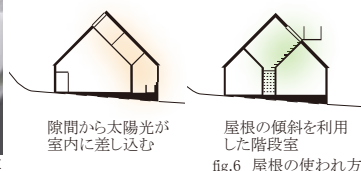
fig.4 領域をつくる

3-2. 分析__森のなかの住宅／長谷川豪

実際に大きな切り妻のヴォリュームの中に小さな切妻のヴォリュームを寄り添うように組み合わせている(fig5)。切妻屋根と切妻天井との隙間(小屋裏)の空間は、屋根の傾斜を利用した階段室や、外部の自然環境を屋内に取り入れるような役割を担っている(fig6)。



fig.5 内観写真



隙間から太陽光が室内に差し込む

屋根の傾斜を利用した階段室

fig.6 屋根の使われ方

小屋裏空間は内と外とのニュートラルな位置にあることで、内外混在の場をつくり、空間に豊かさが生まれる(fig7)。



fig.7 小屋裏空間

4. モデル化

分析から屋根が重なることで空間と空間の間に内外混在空間が生まれることがわかった。混在空間とは「内部空間のような外部空間」「外部空間のような内部空間」を示す。水平方向に屋根を通した重なりをつくる。機能が視覚的に認識できることで家型の内部空間が表に現れる (fig8)。



fig.8 機能の重なり

切り妻屋根を入れ子状に組み、断面的に屋根が重なることで、内部に外部のような空間を作ることができる(fig9)。



fig.9 入れ子状の重なり

5. 提案・設計

重なりモデルを用いて「内部空間のような外部空間」「外部空間のような内部空間」の混在する住宅を設計する。大屋根の内部空間に機能を持ったいくつもの切り妻屋根のヴォリュームを組み入れることで、ひとつの集落のような住宅を提案する(fig10)(fig11)(fig12)(fig13)。

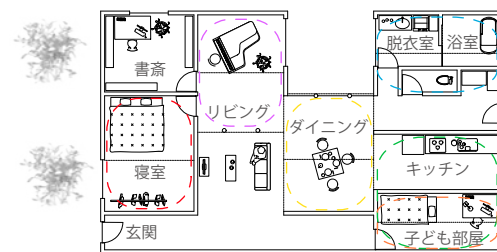


fig.10 Site plan

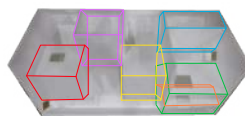


fig.11 全体構成



fig.12 模型写真



fig.13 Section